側に，その適切な用法についての終わりのない論争』を必然的に伴っている」と述べられている。この部分が解答の核となる。さらに，段落Ⓑ最終文（For example, a …）では，その例として，「個々の大統領や首相が『優れた』リーダーかどうかを議論しても，『優れた』リーダーについての意見が一致することはほとんどない」という内容が述べられていて，その原因は，議論に参加する人々が優れたリーダーシップについて異なる定義をしているからだと考えられる。これらのことから，「本質的に論争される」とは，「定義が異なるために論争が起こる」と解釈できる。加えて，段落Ⓑ第2文（The importance of …）の but 以下で，「お互いの主張を理解するためには，少なくともお互いの立場を理解できる必要がある」と述べられていることから，立場によって異なる定義が提唱されている概念であるということを解答に加えてもよいだろう。〔解答〕では，「立場」の指す内容が曖昧に思われたため，「人によって」としている。

設問3．文の主語は the differences，動詞は explain，both 以下から文末までが explain の目的語で，both *A* and *B*「*A* と *B* の両方とも」の表現が用いられ，*A*，*B* とも why で始まる節になっている。一つ目の why 節では，little が「ほとんど～ない」の否定の意味であることに注意して訳す。二つ目の why 節の主語 this は，段落Ⓔ第1文（All these aspects …）の but 節の主語 this，段落Ⓔ第2文（This is therefore …）の主語 This と同じ。具体的には，直前の段落Ⓓ第1文（This fourfold typology …）中の This fourfold typology「この4要素からなる類型論」（but 以下では the system「システム」と言い換えられている）を指すと考えられるが，訳出しなくてよい。

設問4．段落Ⓑ：下線部(1)では，「本質的に論争される概念」と述べられており，続く第5文（Gallie suggested that …）では，権力のような概念は使用者側に適切な使用についての議論を必然的に伴うとしている。さらに最終文（For example, a …）の例では，熱が「議論の激化」を，光が「議論の解決」をそれぞれ表しており，議論が終わらない状況を述べている。これらから，論争や議論を含むものが解答になると考えられるので，(ア)「議論する価値のある考え」が適切。

段落Ⓒ：リーダーシップの4つの定義が提示されて，第8文（Apart from noting …）で，「こうした定義は私たちをより混乱させる」という内容が述べられているので，(ウ)「4つの定義，さらなる混乱」が適切。

段落Ⓓ：第1文（This fourfold typology …）で「この4要素からなる類型論がすべてを網羅するとは言わないが，このシステムはリーダーシップの定義のかなりの部分を占めている」と述べて，最終文（Thus we are …）のコロン（：）以下で，システムの具体的な内容を述べている。よって，(イ)「システムの作成」が適切。

段落Ⓔ：第1文（All these aspects …）では，類型論による4つの分類を指して「理想的な類型」と表現していると考えられる。following 以下の説明から，これは，4つの分類を用いて，現実のリーダーシップの事例をきれいに記述することは不可能だという意味に解釈できる。第2文（This is therefore …）では「これは発見的なモデル」と，類型論によるシステムを「モデル」と表現している。これらから，4つの類型論というモデルの限界を認めていると言える。また，第2文の「現実だと思うものを映す『客観的』断片に世界を分割しようとする試みではない」も，モデルについてのある種の限界を認める内容と言える。よって，(エ)「モデルの限界」が適切。

4　**解答例**　The author suggests that maintaining a record will allow you to turn your failure into knowledge. This is because the record enables you not only to avoid repeating the same mistake, but also to come up with a better solution. Keeping a record will help you change the way you interpret failure, and make you see it as a learning opportunity, rather than an obstacle to progress.（70語程度）

◀解　説▶

設問の訳：下線が引かれた文で筆者が意味することを70語程度で説明しなさい。

下線の文は，本文全体の結論部で，筆者の主張を簡潔にまとめたものになっている。以下，本文を順に見ていく。

本文第1段第1文は，下線の文の後半部とほぼ同様の内容が述べられていて，これが筆者の最も言いたいことだとわかる。第1段第1文の「ノートを書いておくこと」は，下線の文の「記録をつけること」と同意である。

本文第2・3段では，第1段第1文の「失敗を知見として役立てられるようになります」をより具体的に説明しているので，これを参考にして筆者の主張をまとめるとよい。本文最終段の第3・4文の内容は，下線の文の「失敗や挫折の捉え方を反転させ」に関連している。よって，「反転」が意味するところをこの部分から読み取り，解答に加えることができる。

〔解答例〕では，「失敗を知見とする」を turn your failure into knowledge と表現している。また，「失敗や挫折の捉え方を反転させ」は，change the way you interpret failure と表した上で，make you see it as a learning opportunity, rather than an obstacle to progress「それ（失敗）を，前進を妨げるものではなく，学習の機会と捉えさせる」と表現している。come up with「考えつく」は formulate でもよい。formulate の方が固い表現である。

❖講　評

2022年度も，長文読解問題が3題，英作文問題が1題，試験時間は100分という例年通りの形式であった。

1は，社会規範について論じた英文。英文和訳の設問1・設問4とも，一文が長く，構文を正しく把握するのが難しい。設問3の空所補充は，表現を知らなくても，文脈から判断できるかどうかがカギになる。

2は，人間の脳の仕組みがいまだに謎であることを述べた英文。内容的には読みやすいが，設問4の空所補充がやや難しい。

3は，リーダーシップの定義についての英文。内容が抽象的なうえに，英文の展開が読めず，読みにくいと感じただろう。設問2の日本語で説明する問題は，手がかりとなる英文の構造が複雑で，文意の把握が難しい。また，文意そのものも抽象的でわかりにくい。設問4は段落の主題を選ぶ問題だが，本文中の表現がそのまま選択肢になっているわけではなく，手がかりとなる箇所もわかりづらいので難度が高い。

4の英作文は例年通り，筆者の主張を整理するところから始める必要がある。日本語の表現や言い回しにとらわれることなく，英語で表現できる構文や語彙で文章を再構成する力が要求されている。2022年度も指定語数が70語程度なので，要点を簡潔にまとめる必要がある。

全体としては，英文の量，記述の量が多いために100分の試験時間でも余裕はない。先に設問に目を通し，上手に時間配分をすることが重要である。